

プロジェクト名	下田歌子研究プロジェクト
研究所名	下田歌子研究所(所長 大関啓子 教授)
設置開始	2011.7.20
設置終了	2014.3.31

■研究の進捗状況(研究員の活動実績含む)

(1)研究員と岩村の人々の協力により、下田作詞の校歌の数々が判明し、その聞き取り調査、録音保存が進められている。また、英国現地調査によって、1895年に下田が訪問した英国女子教育視察の対象校が判明し、当時下田に提供された参考資料と内容、提供した人物が明らかになり、整理が行われている。その調査研究の一部は「実践女子大学 文学部紀要 第54集」に『まよひなき道—下田歌子英国女子教育視察の軌跡Ⅱ』として報告した。さらに下田の「新撰家政学」の翻訳に取り組んでいる。

(2)下田関係書籍、直筆の書・短冊等の購入計画が進められている。

(3)現地調査の録音・録画等の映像を含め、下田アーカイヴとしての保存・整理が進められている。

(4)研究交流会「歌子さんの集い」を12月11日(日)に岩村で主催し、研究員全員が参加。生誕地岩村を中心とする恵那市の人々からの下田帰郷時の聞き取り調査と交流会を行った。その結果について録画・文書の保存を行っている。また、下田作詞の校歌の調査・保存も進められている。

(5)各年度にリーフレットの発行を計画していたが、今年度は7月20日にプロジェクトが発足した初年度のため、創刊号の発行が遅れ、次年度の6月に発行とした。各研究員から原稿が寄せられ、準備が進められている。よって次年度は6月と12月の2回のリーフレット発行を予定している。これは、学生・生徒・教職員の学内の対象だけでなく、できるだけ多くの卒業生と、さらに日野市・恵那市等の周辺社会への広報としても配布する予定である。

(6)前述のとおり、12月11日(日)に恵那市岩村において研究交流会「歌子さんの集い」を主催し、9名のゲストスピーカーと58名の参加者により、3回の下田帰郷を中心とする聞き取り調査を兼ねた交流会を行った。図書館所蔵の第三回目の帰郷時の下田の数枚の写真を中心に、当時小学生で出迎えた人々の証言もあり、熱気を帯びた研究会となった。最後に、参加者の記憶にある下田作詞の校歌2曲が合唱され、中には涙ぐむ参加者もあり、下田に対する故郷の人々の熱い思いに、感動を覚えた会であった。交流会としても、聞き取り調査としても、予想外の成果があり、アンケート、その後頂いた数通の礼状と現地の反応では、是非今後も続けてほしいとの強い要望があった。会の成功は、全研究員の協力と、現地研究員夫妻の貢献に帰するところ大である。また、下記の通り、3回の研究会議を岩村と日野において行い、研究成果と情報及び今後の活動計画等について話しあった。

■第1回 8/27(土)(日野) ■第2回 12/11(日)(岩村) ■第3回 3/17(土)(日野)

(7)10月18日(火)にNHK岐阜放送で「ふるさと人物伝—下田歌子特集」が放送され取材協力と出演を行った。地方局のみの放送であったため、卒業生からの問い合わせもあったが、一部の地域でしか見られなかったことは、残念である。今後もぜひ下田についての機会をつくりたいという担当アナウンサーの言もあり、協力をしていきたい。

9月12日(月)、恵那市先人教育講演会「下田歌子の志とイギリス留学」を、岩邑中学で中学生と町民約170名を対象に行った。11月3日(木)、実践桜会で「癸卯園遊会活人画」と題して、同窓生を対象に講演を行った。また、海外からの下田研究についての問い合わせが大関に3件あった。1つはドイツ人女性研究者から、下田を含む日本人女性を対象にした研究を行っており、情報と資料の提供を行った。

さらに、下田が視察したことが明らかになっている英国と米国の訪問校2校から、下田について是非詳しい情報がほしいという依頼があり、情報提供の結果、今後は大関と共同研究として、海外へも下田の研究・広報活動を展開できると思われる。

オックスフォード大学サマヴィル・コレッジでは2010-2011年度の大関の2度の現地調査により、研究年報に1895年のMadame Utako Shimodaの訪問が記載された。

■現在までの達成度

(1)生誕地、英国双方の現地調査は前述の通り、予想外の成果をあげている。

(2)予算の許す範囲で収集が進められている。

(3)学内でも下田資料は各部所に分かれているため、今年度は当研究所内の資料の保存に留まっている。今後はそれぞれの協力を得て、範囲を広げていく予定である。

(4)(6)予想した以上の結果を出せたので、次年度も継続して、研究交流会「歌子さんの集い」第二回を10月21日(日)に岩村で主催する予定。今後は、こうした催しに学生・生徒が参加できる機会を考えたい。

(5)前述の通り発行が遅れているので、次年度に2回リーフレットを発行する予定。

(7)前述の通り、NHKや恵那市の協力により、学内だけでなく活動は社会におよび、さらに下田の117年前の視察校を中心に、海外にまで広報活動と共同研究の輪が広がっている。

全体的に、初年度で7月途中からの始動であったが、各方面の協力により、予想以上の成果をあげることができた。今後は学生・生徒の参加の機会を多くしたい。

■次年度以降の研究(見込み)

(1)~(3)研究所以外の学園内の下田研究とその資料について、各部署と連携をとり、協力して資料計画を進めていく。

(5)平成24年度中に、2回のリーフレット発行を行う予定。

(4)(6)学祖生誕地の岐阜県恵那市岩村において、研究交流会「歌子さんの集い」第二回を主催する予定。

(7)学内・国内・海外と様々な人々の協力を得て、下田を中心とする輪ができつつある。下田研究に携わる人々をつなぐささやかな絆の役割を果たしていく。

■代表的な研究成果(雑誌、学会発表、図書等)

1.大関 啓子『まよひなき道—下田歌子英国女子教育視察の軌跡Ⅱ』『実践女子大学 文学部紀要 第54集』pp.1-10(2012年3月)。

オックスフォード大学サマヴィル・コレッジへの、1895年5月22日の下田歌子の視察についての研究調査。

2.実践女子学園 下田歌子研究所 平成23年度資料目録。

3. *University of Oxford, Somerville College Annual Report*, (p.38).

オックスフォード大学サマヴィル・コレッジへのMadame Utako Shimoda の1895年の視察が正式に記載された。